

## エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループの経過報告・今後の予定

### 1 H24年度 第1回エゾシカ・陸上生態系WGの概要

会 議 平成24年6月23日(土) 斜里町役場  
現地調査 平成24年6月24日(日) 知床岬

#### (1) 主な議題

- ・H23 シカ年度エゾシカ保護管理計画実行計画実施結果について
- ・H24 シカ年度エゾシカ保護管理計画実行計画(案)について
- ・第2期知床半島エゾシカ保護管理計画(素案)について
- ・植生指標開発について
- ・エゾシカA地区ルシャおよび隣接地区の管理方針再検討について
- ・エゾシカ保護管理計画モニタリング項目と長期モニタリング計画について

#### (2) 知床岬地区における捕獲結果と今後の進め方(環境省事業)

- ・夏季に設置した仕切柵を利用して、積雪期2回、雪解け後1回の捕獲を実施した。H23 シカ年度における捕獲頭数は216頭。
- ・捕獲前に実施した航空カウントによる仕切柵内の越冬個体数は265頭で、このうちの80%以上を捕獲できた計算となり、仕切柵の有効性が示された。
- ・平成19年度からの5年間での捕獲数は累計685頭となった。
- ・今年度以降も引き続き仕切柵を利用した捕獲を継続し、越冬数5頭/km<sup>2</sup>を目指す。

#### (3) ルサー相泊地区における捕獲結果と今後の進め方(環境省事業)

- ・道道知床公園羅臼線を通行止にして車両上から行う流し猟式シャープシューティング(以降「SS」)、ルサ川左岸での大型囲いわな、昆布浜での小型囲いわな、巻き狩りによる捕獲手法検討(3年目)を実施。流し猟式SSで53頭、大型囲いわなで91頭、小型囲いわなで15頭、巻き狩りで29頭の合計188頭(うちメス成獣84頭)を捕獲。
- ・H24 シカ年度の密度操作実験計画案では、流し猟式SS、大型囲いわな、巻狩り、推定捕獲数約300頭(オスや子ジカを含む)を見込んだ案を提案。
- ・これに対して、用いる手法の優先順位の検討、明確な個体数目標や個体数モニタリングのあり方、社会条件や希少猛禽類等、エゾシカ捕獲に支障となる要件の整理が必要との指摘があった。

#### (4) 幌別一岩尾別地区における捕獲の進め方(環境省事業)

- ・エゾシカ生息数が5000頭レベルと推定される半島最大の生息地である同地区において、効率的にエゾシカを捕獲するための捕獲手法検討を実施。
- ・H23 シカ年度は小型囲いわなで85頭、くくりわなで58頭、流し猟式SSで309

頭、合計 452 頭（うちメス成獣 247 頭）を捕獲した。

- ・ H24 シカ年度の密度操作実験計画案ではこれらの手法の組合せに加え、新たに海岸台地の囲い柵（今夏設置予定）を用いた巻き狩りにより 1000 頭程度を捕獲する案を提案。
- ・ 委員からは、「仮に 5000 頭生息するとすれば 2000 頭以上捕獲が可能かを検討すべき」、「囲い柵の運用について継続して議論が必要」等の指摘があった。

#### （５）エゾシカ A 地区ルシャおよび隣接地区の管理方針再検討について

- ・ 第 2 期エゾシカ保護管理計画の計画期間（平成 24 年 4 月～29 年 3 月）の間に、ルシャ地区および遺産地域に隣接する地区（半島基部側）について、第 3 期エゾシカ保護管理計画期間に向けて管理方針の検討を行うこととした。
- ・ 今回は、各地区の現状と課題について情報共有をおこなった。知床世界自然遺産地域のシカ管理計画と町の鳥獣被害防止特措法による交付金による捕獲計画との連携や希少鳥類保護との両立等に関する課題が意見交換された。

#### （６）知床岬現地調査

- ・ 捕獲支援用仕切柵の整備状況を見学した。
- ・ 植生保護柵による植生の回復と、エゾシカ密度低下による柵外の植生の回復状況が確認された。

## 2 今後の主な予定

- ・ 環境省個体数調整関連事業の実施方針や植生指標検討等についてはメーリングリスト等で継続議論する。
- ・ 平成 24 年 9 月または 10 月 第 2 回エゾシカ・陸上生態系 WG  
ルサー相泊地区及び幌別ー岩尾別の捕獲計画案が主要検討課題
- ・ 植生指標検討部会の開催（時期未定）